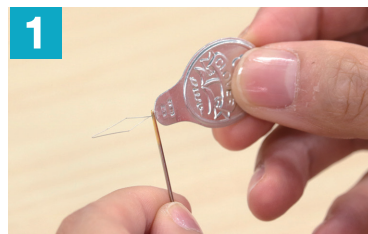


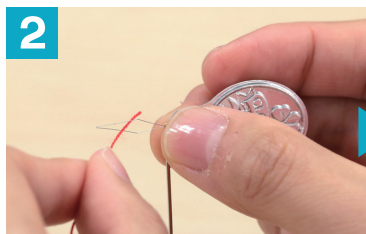
お気に入りの洋服を長く着るための「お直しの基礎」をご紹介します。

【Lesson1】①糸の通し方 ②1本どりと2本どりについて ③糸の長さについて ④玉結び ⑤玉止め

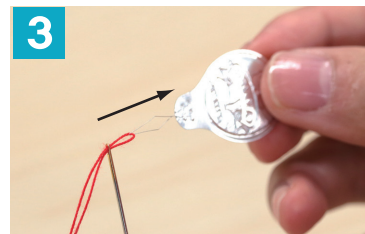
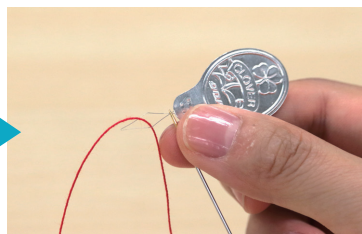
①糸の通し方（スレダーの使い方） ※スレダー：針に糸を通す時に使う道具



針穴にスレダーの針金部分を差し込みます。

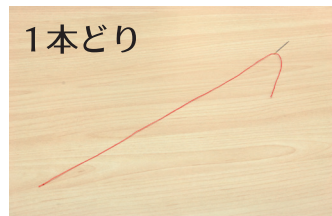


針金部分の輪に、糸を差し込みます。

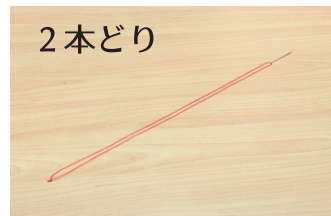


スレダーを矢印の向きに引くと、針穴に糸が通ります。

②1本どりと2本どりについて



スカートやパンツの裾をまつ時や薄い布を縫う時に使います。

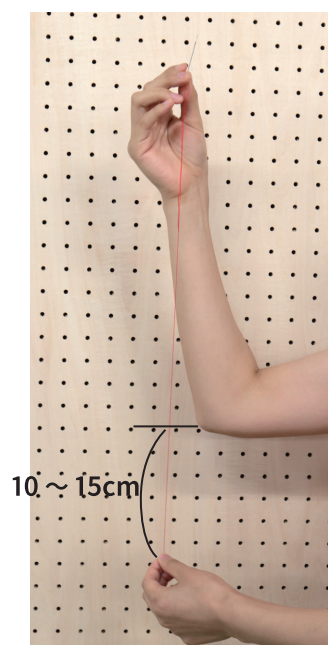


ボタン付けや丈夫に縫いたい時に使います。

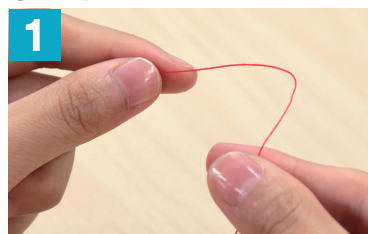
③糸の長さについて

ぬい糸の“縫いやすい長さ”は、針を持って肘を曲げた時に肘先から10～15cmくらいです。長すぎると糸が絡まりやすくなるので注意しましょう。

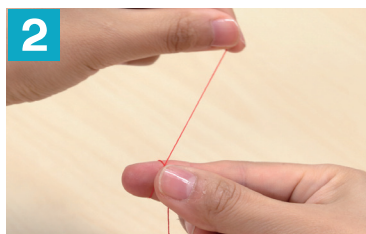
縫う場所が短い時は、右の写真で説明している長さより短くても大丈夫です。



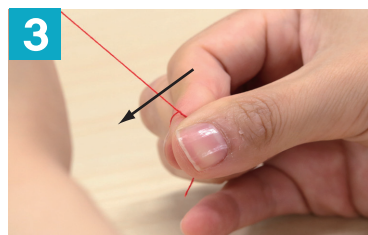
④玉結び ※縫い始めに、糸が布から抜けないように糸端に結び玉を作ること玉結びといひます。



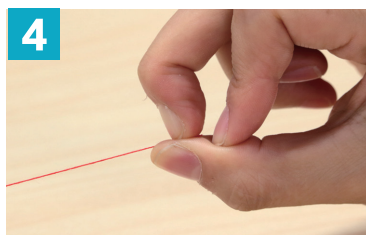
糸端側を右手で持ち、



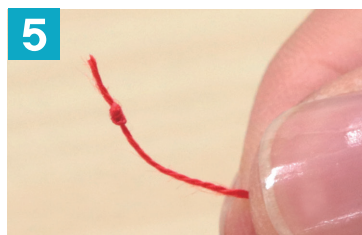
人差し指に巻き付けます。



糸が交差した位置を親指で押さえつけ、前に動かし糸を絡ませます。

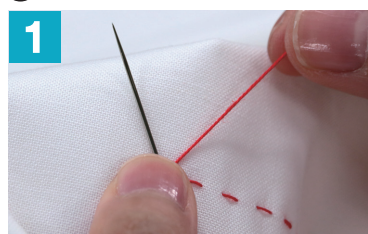


糸が絡んだところを中指の爪で押さえ、糸を引きます。

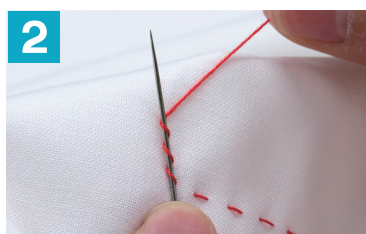


玉結びができました。

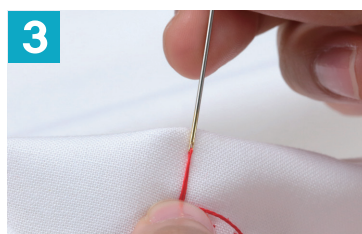
⑤玉止め ※縫った糸がほつれないように、縫い終わりに玉止めをします。



ぬい針を縫い終わりの位置に置き、



ぬい針に糸を3回巻き付けます。



巻き付けた糸を左手の親指で押さえ、糸を引きます。



糸を切って、玉止めができました。